横浜市芸術文化教育プラットフォーム
PLATFORM
ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市市民局、横浜市教育委員会

コーディネーターの役割とは何か

文部科学省「コミュニケーション教育推進会議」に寄せて

横浜市芸術文化教育プラットフォームの「学校プログラム」で活動を続ける、
アートの現場と学校教育をつなぐコーディネーター11人にうかがいました。

企画：横浜市芸術文化教育プラットフォーム
制作：ＳＴスポット横浜　平成22年8月23日発行

蔭山ヅルさん（ART LAB OVA）

関係性をつなぐプロとして

コーディネーターとして、気をつけていること

アーティストの常識と学校の常識は、正反対であることもあるので、お互いに、無駄な労力を使わずとも、お互いの能力を活かせるように、事前の聞き取り、主旨の説明などをしっかりとしています。

また、現場のニーズに応じたスキルがあるというだけでなく、その現場に応じたコミュニケーションができるアーティストを選んでいます。

コーディネーターの専門性とは何か

(1)　この学校のニーズには、このアーティストが応えられるといった、アートやアーティストのことをよく知っている、アートの現場と、学校の現場を熟知したプロ。

(2)　いろいろな価値観、背景をもった人たちがそれぞれの思いで、関わるような難しい現場でありながら、関わる人みんなが、それなりに、満足感や問題を感じながら、企画を終えることができるような、「関係性をつなぐプロ」。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

実際、学校外の人にとって、学校内のルールを知るのには、かなり時間がかかります。たとえば、学校の先生にとって、学校外の人とやりとりをする機会はあまりないので、いまだに、メールさえ、利用していない人も多いです。たった１日のスケジュール調整をするにも、時間と労力がいる仕事です。

学校とアートという、まったく知らない同志がいっしょに仕事をするということは、たとえば、教員にとっても、アーティストにとっても、はじめての海外旅行で、秘境にいくようなことと同じです。

お互いに時間をかけ、独自に研究するなどの準備をしなければ、なかなか実現できませんし、相当なリスクをともないます。そして、この場合、そのリスクは、こどもたちにふりかかることさえありうるのです。しかし、もしも、秘境のことを熟知し、お客のニーズを理解できるツアーコンダクターがいれば、短い準備期間でも、だれでも、すばらしい体験をすることができる可能性が広がります。

コーディネーターというのは、縁の下の力持ち的に働いているので、なかなか気づかれにくい仕事ですが、もしも、コーディネーターがいなければ、冠婚葬祭をはじめ、日常の重要な場面で、相当苦労するにちがいありません。コーディネーターを軽視することは、現場に重労働を強いることになるか、もしくは、その企画そのものを、形骸化させることになります。

ＡＲＴ　ＬＡＢ　ＯＶＡ……制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして 1996 年から活動をしています。桜木町のアートセンターを拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開中です。http://artlabova.org/

◆平成 22 年度のＰＦ事業では竹山小学校、北綱島特別支援学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立竹山小学校 2 年生図工、コーディネーター：ART LAB OVA、アーティスト：ART LAB OVA、捩子ぴじん、平成 21 年 12 月 14 日、15 日、17 日実施）。

八尋由美子さん（神奈川県立音楽堂）

学校の意向から、半歩すすむこと

コーディネーターとして、気をつけていること

・学校の意向を汲むこと
・意向に沿った出演者を選定すること
・出演者の特性を生かしたプログラム作り
・学校の意向から半歩進んだプログラム作り

コーディネーターの専門性とは何か

・出演者選定における、幅広いネットワーク
・通常の公演出演料に比べて、圧倒的に少ないギャラでの出演交渉

神奈川県立音楽堂……神奈川県立音楽堂は、1954年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは50年を経た今でも人々に感動をあたえつづけています。http://www.kanagawa-ongakudo.com/◇指定管理者は、財団法人神奈川芸術文化財団◆平成22年度のＰＦ事業では富士見台小学校、阿久和小学校を担当。写真は、神奈川県立音楽堂の自主企画「子どもと楽しむ夏・音楽堂」公演のアウトリーチとして行われた横浜市立南戸塚中学校、横浜市立下郷小学校での取組み（神奈川県立音楽堂サイトより）。

加藤牧菜さん（オフィスマキナ）

アーティスト・学校、双方の価値観を大切に

コーディネーターとして、気をつけていること

アーティストと学校の先生には、それぞれ異なった価値観がありますので、双方の価値観を大事にするように気をつけています。それぞれ「専門家」で すから、なるべく役割分担が上手く行くように心がけています。特に、時間の感覚や用語の使い方など、ほんの些細なことでも、異分野同士で齟齬が生じてしまうことがあるので、コミュニケーションがスムーズに行くように気をつけています。

コーディネーターの専門性とは何か

複数の利害関係者の状況をよく見て、全員が気持ちよくプロジェクトを遂行できるようにすることです。学校の先生とアーティストという専門家、学校 という特殊な場、アートという特殊な分野を理解し、一歩引いたジェネラリストとしての視点で、子どもにとって何が大事かを考える必要があります。異分野間 の交流を円滑にする仕事として、高いコミュニケーション・スキルが要求されると思います。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

日本では、運営・制作・事務局といった、事務的支援の「プロ」を育てるという発想が少ないと思います。しかし、それぞれの分野に専門家がいるように、事務的支援や管理（アドミニストレーション）を得意とする人材が育てば、異分野交流はより促進されると考えます。

特に、学校教育の「周辺」にそのような人材が増えると良いと思います。教育の現場では、先生方がお忙しすぎて、自ら校外の活動とつながろうとする ことはなかなか難しいようです。コーディネーターのプロが活躍することで、先生方にあまり負担をかけずに、外界とつながった、多様な教育の形を考えて行けると思います。

株式会社オフィスマキナ……オフィスマキナでは、教育・学術関連のイベント、セミナー、コンサート等の企画制作を行っています。おもに、科学教育と音楽の企画を手がけています。平成 18 年度より「横浜市芸術文化教育プログラム」の「声楽」ワークショップを担当。20 年度からは「ジャズ」ワークショップのコーディネーターも担当しています。http://www.office-makina.com/◆平成 22 年度のＰＦ事業では浅間台小学校、六つ川台小学校、汐見台小学校、西富岡小学校など７校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立俣野小学校 4 年生音楽、コーディネーター：オフィスマキナ、アーティスト：ユキ・アリマサ、平成 21 年 9 月 9 日、9 月 30 日、10 月 7 日実施）。

冨士原直也さん（栄区民文化センター　リリス）

実施後も、学校とパートナーシップを

コーディネーターとして、気をつけていること

時間調整・企画調整に関係する負担を減らし、最も効果的な実施をする手助けをする。

・時間調整について
学校・実演家ともに多忙であり、企画や相談できる時間が限られている。本番当日でも指定された時間の中で、実演家・観客となる生徒達が、芸術の魅力を最大限に味わうことができるように、準備・進行の時間を調整している。

・企画調整について
環境的な制約も多く発生する中で、学校・実演家双方から忌憚なく希望を募り、もっとも現実的な形で集約する。遠慮や軋轢の生じないように、それぞれの事情に配慮しつつ、事業に係わる全員が成果を実感できるように動いている。

・プラスα提案する
制約の多い中で「できる範囲で」となりがちな企画で、飾り付けや共演、充実した資料づくりなど、より楽しんでもらえるような要素を盛り込み、制作する。

コーディネーターの専門性とは何か

・事業全体を客観的に把握すること
企画進行、スケジュール管理、実施する環境の調整

・実施後も継続してパートナーシップが取れること
その他の事業との協力展開、来年度へ向けた経験の蓄積。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

「表現」の場が学校の外、劇場や公共ホール、イベントの場に飛び出してこそ、コミュニケーション教育がより成果のあったものとして認識されることと思います。今回の事業の次のステップとして、子どもたちが安全に参加しやすく、各地のコーディネーターや芸術団体が受入れしやすくなるシステム構想をお願い致します。

栄区民文化センター　リリス……本郷台駅より徒歩 3 分の立地にある区民文化センター。平成 18 年 4 月より、指定管理者として神奈川共立・共立・JSS 共同事業体が運営している。アコースティック音楽に適したホールを持ち、クラシック鑑賞事業に特に力を入れているほか、区内の福祉施設・学校等を会場にしたアウトリーチコンサートを平成 19 年度以降、継続している。http://www.lilis.jp/◆平成 22 年度のＰＦ事業では上郷小学校、公田小学校、千秀小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立上郷小学校 4～6 年生音楽、コーディネーター：リリス、アーティスト：栄区三曲協会、平成 21 年 11 月 26 日実施）。

曽根真奈実さん（久良岐能舞台）

アーティストとの信頼関係

コーディネーターとして、気をつけていること

担当している「古典芸能・狂言」の分野は子どもたちはもちろんですが、教師ですら知らない分野であることがほとんどです。そのため、狂言の魅力や面白さを子どもたちに伝えるためにはどのような授業が必要かをこちらから提案しています。学校によっては要望がある場合もありますが、何も先入観なしに観て楽しめるのが「狂言」の良さなので、あまり堅苦しくなく参加してもらえるように心がけています。

しかし、ある程度の予備知識としては事前学習も重要なので、各学校に狂言の解説用レジュメを配布し、子どもたちが当日を楽しみにするような準備を行っています。

そして、アーティストと学校のスケジュールの調整が最も苦労する部分ですが、学校に出来るだけ併せられるようにスケジュールを把握し、その中でアーティストと調整しています。アーティストの賛同が得られているからこそ実現できるとも捉えています。

コーディネーターの専門性とは何か

まずは専門知識を持ち、各学校に担当する分野の説明を十分にできることです。

「狂言」について相手がどのような要望を持っているのか、簡単な質問から、狂言の予備知識など、狂言や古典芸能のみならず、学校教育における古典芸能の在り方などの背景を知っている必要があります。

舞台鑑賞における準備などでは、体育館でどのように狂言を見せるか、当日はどのような準備を学校にお願いし、アーティストに気持ちよく実施して貰えるかは、能楽堂で企画を担当しているからこそ身についている専門知識が活かされる部分です。

そして、アーティストとの信頼関係があり、スケジュール調整や準備をスムーズに進められることが重要です。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

学校教育における芸術鑑賞や体験学習の授業は、文化関係の予算が削られたり、年々縮小しています。それと同時に、家庭においても芸術に触れる機会の減少は顕著に現れています。子どものうちに芸術に触れることで、思わぬ才能を開花する子どもたちはたくさんいます。今後とも芸術鑑賞の機会を広げていけるように、是非ともご尽力ください。

久良岐能舞台……横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会など市民に開かれた能舞台として利用されています。 四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理・ホール運営事業を進め、平成１８年９月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より委託されています。一年間に自主事業を１０公演開催し、１０月には近隣地区小学校を無料招待する小学校向け狂言鑑賞教室も開催しています。http://www.kuraki-noh.jp/◆平成 22 年度のＰＦ事業では寺尾小学校、港南台第一小学校、左近山第二小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立能見台小学校 6 年生国語、コーディネーター：久良岐能舞台、アーティスト：善竹富太郎・善竹大二郎、平成 21 年 10 月 15 日実施）。

菰方由美さん（アートの時間）
センスを磨く

コーディネーターとして、気をつけていること

・学校のカリキュラムの邪魔をしない。
・まず、子どもたちが信頼している先生に楽しみにしてもらえるように、プログラムの魅力を分かりやすく伝える工夫をしている。
・クラス経営で困っている場合は、問題解決のきっかけとなるプログラム作りを工夫するようにしている。
・そして、その成果も先生に一番実感してもらえるように、具体的なもの、次につながるアイデアなど、持ち帰れるような何かを残せるようなプログラム作りを心がけ、アーティストにも働きかけをしている。
・学校の現場を尊重し、あくまでアーティストにはこのプログラムの手伝いをしてもらうという認識で関わっていただくよう、学校の要望や進める上で必要な情報を伝えるようにしている。
・なるべく学校の事情を理解するよう日頃から機会があれば学校と関わりを持つようにしている。
・何よりこの事業が子どもたちに今「必要」なのだという信念を持ち続けるようにしている。

コーディネーターの専門性とは何か

・学校現場およびアートの現場の両方を理解し、調整する能力
・企画力と実行力
・学校現場とアーティストの２者の満足だけでなく、「これからの社会のあるべき姿」を作る事業に関わっているのだという認識で、自分たちのやっていることを再評価できる視点を持っていること。
・また、その視点で信念を持って両者に意見ができること。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

・世の中には素晴らしい芸術、アーティストが存在しています。その世界を未来ある子どもたちに伝えるためには、学校現場の先生の力だけでは想像できない、アートに関っているコーディネーターの幅広い専門知識が必要です。
・先生方が、アーティストとこどもとのやりとりを、普段より少し距離をおいて眺めたとき違うこどもの一面に気づくという感想をいただくことが多いです。担任しているこどもを一度外から見てみる機会も先生にとって、意味のあることかもしれません。（ワークショップ型の場合）
・アートは、非日常を体験することで、一度日常の自分を忘れ、外側から客観的に見直し、自分の立っている場所を再確認した後に再び日常に戻っていく一連の流れを促すものです。つまりあくまでも日常をよりよく生きるためにあるのだと私たちは理解しています。しかし、定義のはっきりしないアートは、扱い方によってはあらぬ方向へ行きかねません。教育現場にとって有益なアートもあれば、害を与えるアートもあるかも知れません。その選択のリスクを専門家ではない教師に担わせてよいのでしょうか。
・そこにコーディネーターの存在意義があると思います。ただ、確固たる教育機関や判断基準があるわけでもない現状で、私たちコーディネーターは自分の信念で自分たちの基準作りをしており、このために日頃からあらゆる分野のアートを見聞し、各々のセンスを磨くという作業の中で少なからぬ投資をしているわけで、そこを無視してしまうのであれば、ひいては教育現場へもたらされるアートの質も保証されない、あるいは全体があまり意味のない事業に終わってしまう、という結果をもたらすのではないかと危惧します。

アートの時間……アートの時間は、「アートをもっとまちなかに！」と、2007 年 9 月より活動を始めた団体です。コンサートホールや劇場、美術館などから飛び出して、アーティストとともに地域や学校へ出向き、アートイベントやアートプログラムの企画運営を行っています。コンサートやライブイベントなどを通じ、人と人のつながりを生み出す、地域づくり事業にも取り組んでいます。パフォーマンスだけでなく、アーティストの息遣いまで感じられるシチュエーションを作りたい。そして、特に子どもたちには、より身近にアーティストの感性に触れるという体験を通して、「別の自分の発見」をして欲しい。そんな思いで活動しています。◆平成 22 年度のＰＦ事業では品濃小学校、深谷小学校、大正小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立品濃小学校 5 年生図工、コーディネーター：アートの時間、アーティスト：深澤純子、平成 21 年 10 月 16 日、20 日実施）。

山本のりこさん（企業組合 Media Global）

「みんなの思い」が好きなこと

コーディネーターとして、気をつけていること

・学校のねらいとアーティストの思い：双方の思いがひとつの方向性を見出すこと

・子どもたち・先生・アーティスト・コーディネーター　関わるみんなが楽しい思いを共有できること

コーディネーターの専門性とは何か

・人を結ぶ　思いを結ぶ＝ノウハウではない。経験に基づくスキルと物事に対する把握力、判断力。

・教育プログラムの場合、なにより「みんなの思い」が好きなこと。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

教育プログラムの場合、アーティスト、学校双方のプログラムに対する意図を熟慮しアーティストには、より良い環境で表現できるよう、また限られた時間で学校側の目標達成を視野に入れたプログラム進行を可能にできるか否かは、コーディネーターの力量にかかっている。その役割は大きい。しかし、現状のコーディネーターの位置づけは、アーティストのそれと大きくかけ離れていないか。

企業組合 Media Global……2005 年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は 1998 年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。2006 年より「横浜市芸術文化教育プログラム」のコーディネーターを担当。http://www.mediaglobal.info/◆平成 22 年度のＰＦ事業では坂本小学校、新治小学校、榎が丘小学校、瀬谷さくら小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立坂本小学校 3 年生、コーディネーター：Media Global、アーティスト：中村信子、平成 21 年 10 月 15 日、20 日、11 月 5 日実施）。

徳永扶美子さん（特定非営利活動法人子どもに音楽を）

最上を目指すエキスパート

コーディネーターとして、気をつけていること

こちら側の押し付けにならないように、且ついいものを創り上げるには専門家ではない学校側の要望に必要以上に寄り添わないこと。

コーディネーターの専門性とは何か

その道に精通している者がコーディネートしなければ、ピント外れの活動になってしまい、ただ「やった！」ということの自己満足になるだけ。やる以上は最上のものをやることを目指して欲しい。その為にはその道のエキスパートであるコーディネーターが必要である。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

音楽・絵画（美術）はこの推進事業に入っているのでしょうか？　舞台芸術ではありませんが、両方とも表現芸術ですので、子ども達の心を育て、豊かな情操を育てると思います。

特定非営利活動法人 子どもに音楽を……世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等で 33 回の演奏活動を実施しています。http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/◆平成 22 年度のＰＦ事業では鶴見小学校、山下みどり台小学校、川和小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立中村特別支援学校、コーディネーター：子どもに音楽を、アーティスト：横山奈加子・鷲宮美幸、平成 21 年 10 月 23 日実施）。

高田由利子さん（よこはま音楽広場実行委員会）

プロセスを大切にする

コーディネーターとして、気をつけていること

学校側のご希望やご期待されていることに適合するようなアーティスト、そしてプログラムの内容を吟味していくプロセスを大切にすること。なぜなら、初回のヒアリングで伺ったご意見について、コーディネーターが様々な視点から複数の可能性を提示することで、学校側の本事業に対する意識が変わり、期待が高まることもありますので、先生方の本音をなるべく引き出せるような傾聴姿勢を心がけています。

コーディネーターの専門性とは何か

学校側の抱える問題や生徒達の「今、ここで」の必要性を洞察していくチャンスが与えられていること。コーディネーターが学校訪問や連絡のやり取りをするプロセスで、学校の体質を感じ、抱えている問題が見えてくることはあるが、そこには直接に手を伸ばせなくても、学校という一つのコミュニティにアーティストを介入させることで、ほんの少しでも体質改善に繋がるような働きかけは出来ると思われる。

よこはま音楽広場実行委員会……よこはま音楽広場は「地域にひらかれた音楽（コミュニティ・ミュージック）」を実施するため、平成 19 年に発足しました。平成 19～20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市鶴見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。平成 20 年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ　サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。 教育や福祉、または医療機関などで音楽を行う意味や意義を領域横断的な視点から研究しています。◆平成 22 年度のＰＦ事業では羽沢小学校、山下小学校、矢部小学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立羽沢小学校、コーディネーター：よこはま音楽広場実行委員会、アーティスト：松井イチロー・鈴木タケオ、平成 21 年 9 月 24 日実施）。

堀　利文さん（旭区民文化センター サンハート）

コーディネーターという「機能」がある

コーディネーターとして、気をつけていること

アーティストと学校（先生や生徒）の間では、基本となる目的や優先するもの、また、目標達成までの方法などが異なることが多くあります。
それぞれの考え方や方向性の違いを切り捨てるのではなく、整理・統合することで、１つのプログラムの中で最大限共存させることを心がけています。

コーディネーターの専門性とは何か

アーティストと学校の、それぞれの考え方や方法論・ツールなどに精通し、両者が理解し合えるように媒介するスキル。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

「コーディネーター」の「業務」は、人的にはアーティストや先生の個性や能力によっては、彼ら自身が兼ねることができる場合もあります。

しかし、「機能」としては「コーディネーター」は、外部から刺激の導入を通して行われるタイプの「コミュニケーション教育」に際しては必須のものとなります。

今後、「コミュニケーション教育」の拡充を図っていくのであれば、その担い手の育成や維持を長期的な展望に立って行う必要があります。

旭区民文化センター サンハート……旭区二俣川駅に隣接するビルの５階に、横浜市によって設置された地域文化施設です。平成２年８月に開館し、平成１８年度より、(財)横浜市芸術文化振興財団・(株)横浜アーチスト共同事業体が指定管理者として管理・運営しています。２つのホールとアートギャラリー、各種の練習系施設を備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいています。サンハートでは、地域に根ざした文化施設として「区民が芸術文化を通じて、主体的に地域生活を豊かにしていくための活動拠点」となることを目標としています。そのための活動として、ホールやアートギャラリー等での公演や体験型の企画の実施のほか、サンハートを飛び出して、 区内の学校や施設などでも企画の実施や活動のサポートなどを積極的に行っています。◆平成 22 年度のＰＦ事業では都岡小学校など４校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立希望が丘小学校、コーディネーター：サンハート、アーティスト：米澤浩、熊沢栄利子、平成 21 年 12 月 1 日、3 日、8 日実施）。

田中真実さん（特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜）

状況を俯瞰する

コーディネーターとして、気をつけていること

・立ち会う人それぞれにメリットがある形で、実施まで持っていくこと。
・それぞれの状況、考え、思い、希望などを把握し、整理をすること。
・共有できる決着点を見つけ出すこと。

コーディネーターの専門性とは何か

・状況を俯瞰して見られること。
・全体の方向性を考え、実施できるように状況を整えること。
・資金の獲得ができること。

コミュニケーション教育推進会議に伝えたいこと

日本においても、これまで学校におけるアーティストの活動は、行われてきた。また今現在も多くのところで実施されている。これまでに出来たこと、出来なかったことを検証することを通して、今後の方針を固めてもらいたい。

ＳＴスポット横浜……ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。http://www.stspot.jp◆平成 22 年度のＰＦ事業では善部小学校、桂小学校、盲特別支援学校、中村特別支援学校、二つ橋高等特別支援学校を担当。写真は、平成 21 年度のＰＦ事業の取組み（横浜市立善部小学校、コーディネーター：ＳＴスポット横浜、アーティスト：倉品淳子、平成 21 年 12 月 1 日、15 日、17 日実施）。